2024年度 産業医科大学 小論文 そっくり類題演習問題

TMPS医学館 過去問解説図書館

科目：小論文　　**試験時間：120分**　　**配点：50点満点（2ページ目に800字原稿用紙付き）**

次の文章と参考資料を読み、下の設問1・設問2に答えなさい。（解答は2ページ目の原稿用紙にまとめて800字以内で記述すること）

近代医学は、無作為化比較試験＊1や大規模な統計解析によって裏づけられた「科学的根拠に基づく医療（EBM＊2）」を確立することで、多くの疾患の治療成績を飛躍的に向上させてきた。標準化された診療ガイドラインは、医師個人の経験や主観の偏りを排し、どこでも一定水準以上の医療を提供するための強力な基盤となっている。

しかし、統計が示す「平均的な患者集団にとっての最善」が、目の前にいる固有の人生を背負った一人の患者にとってもそのまま最善であるとは限らない。(1)　科学的根拠を絶対視するあまり、患者が語る生活上の困難や言葉にならない不安、さらには職場や家庭の環境要因を切り捨ててしまえば、医療は人間不在の機械的な作業へと変質してしまう。

そもそも臨床における科学的知見とは、確定した不変の教義ではなく、未知の個体差や社会環境の変化に直面するたびに問い直されるべき「現時点での暫定的な道標」にすぎない。普遍的な科学の知見と、患者が生きる一回限りの物語＊3との間を絶えず往復し、自らの限界を認めながら最善を模索し続ける対話的・批判的な実践こそが、本来の臨床知なのである。

〔注〕＊1 無作為化比較試験：治療法や新薬の効果を客観的に検証する臨床試験手法　　＊2 EBM：Evidence-Based Medicine（科学的根拠に基づく医療）　　＊3 物語：ナラティブ（患者固有の生活背景、価値観、苦悩の文脈）

【参考資料：最近、疲労が蓄積し診療ミスや遅刻が増えている病院勤務医Bさん（35歳・外科医）に関する情報とある一日】
・Bさんの業務内容：①外来診察・手術執刀・病棟回診、②若手医師（専攻医）の指導、③院内委員会業務・紹介状や保険診断書の作成・重症患者家族への説明・学会発表準備
・Bさんのある一日（当直明け～当日深夜）：
前日 8:30～24:00 通常勤務に続き救急当直（深夜の救急搬送対応のため、仮眠は 2:00～4:30 の2時間30分のみ）
7:30～ 8:30　病棟回診・専攻医への手技指導
8:30～12:30　外来診察（45名を一人で担当）
12:30～13:15　昼休み（途中、院内感染対策委員会の打ち合わせと他院への紹介状作成を行い休憩なし）
13:30～18:30　手術執刀（2件）
18:30～20:00　重症患者の家族への病状説明（単独で対応）
20:00～22:30　カルテ記載、保険診断書作成、専攻医の指導記録作成、学会発表スライド作成　／　23:30 帰宅・24:30 就寝

設問1：下線部(1)を踏まえ、著者は臨床における科学的知見（エビデンス）をどのようなものとして捉えているか、第1段落で説明しなさい。
設問2：参考資料の病院勤務医Bさんが心身の健康を回復し、安全で質の高い医療を提供できるようにするためにはどのような対応が必要か、第2段落以降であなたの考えを述べなさい（設問1と設問2をあわせて全体で**800字以内**、目標**720～780字**）。

📝 10分構成メモ欄（いきなり原稿用紙に書かず、まずここで骨組みを設計しよう！）

第1段落（約180字） **設問1：著者の臨床知・エビデンス観**	
第2段落（約120字） **設問2導入：Bさんの問題点の抽出**	
第3段落（約200字） **具体策①：勤務時間・休憩・睡眠の確保**	
第4段落（約160字） **具体策②：業務分担（タスクシフト）**	
第5段落（約100字） **具体策③：産業医面談と結論まとめ**	

解答用原稿用紙（20字 × 40行 = 800字）

★合格目標ライン：9割（720字）〜98%（780字）

5行
200字
15行
400字
25行
600字
35行
720字(9割)
800字